

瀬戸内タウンミーティング（裳掛地区）

平成 23 年 11 月 18 日（金）19 時～21 時

裳掛コミュニティセンター 会議室

参加者：男性 14 人

行政報告に対する意見と市長の回答

・裳掛地区は、過疎化・高齢化が進んでいる。施策にスピード感を持って実施してほしい。世帯数は変わらないが、毎年人口が 70 人減少している。10 年以内にどうにかしないといけない。

（市長）牛窓地区に計画しているデマンドバスは、短期間で実施に踏み切った。何か案が出れば、相談しながら進めていきたい。

・小学校の問題は、玉津小学校だけではない。裳掛も同様に、子どもがいなくなる。若い人が住まない。裳掛地区に若い人が住むようにしてほしい。企業誘致などを推進して、小さな企業でも働く場所があれば、住む人も増えるのではないか。

（市長）玉津小学校は、現在 32 人。今後 3 年連続で入学生が 1 人になる。小さい学校は、小さい学校の魅力があるが、もっと早く手を打つことができなかったのかと思う。裳掛小・美和小の児童数の少ない学校はあるが、市から強引に統廃合を進める気はない。

企業誘致では、岡山ブルーライン沿線も検討したい。2～3ha の土地はないか。

・瀬戸内市は、今後、農業で発展を目指すのか、企業誘致で発展を目指すのか。

（市長）農業、企業誘致の両方である。ただし、市の西部に偏らないように、東は、畑かんや漁業を活用していきたい。農業では、小さな面積でも生活が成り立つよう、知恵を絞る。生産物を売るところまで、付加価値をつける農業を検討する。

・裳掛地区は、中学校がなくなって、若い人が西部に出て行った。裳掛小に裳掛地区以外から通ってもらえるよう、教育の質を上げてはどうか。

（市長）学校選択制も検討したが、地域に支えられる学校になるかどうかが課題になり、根本的な解決にならない。市内の学校同士での交流を進めていきたい。

- ・長島の将来構想ができたと聞くが、こういったスパンの計画か。
(市長)短期3年、中長期7年で計画している。現在、厚生労働省等と協議するなど、計画を具体化するよう動いている。

地域資源と活性化について、意見交換

- ・来年の大河ドラマの「平 清盛」の父の「平 忠盛」が詠んだ「瀬戸の曙」。
- ・虫明八景等の景勝地があるが、人に来てもらうには、道路や駐車場の整備が必要。お金をかけないと資源は、活かない。先行投資を。
- ・若い人が、地域に誇りが持てるように、歴史を後に伝える必要がある。